

# めぐみイエス・キリスト教会

2022年12月11日(日)第二主日アドベント礼拝  
週報「通算第636号」



## 2022年標題聖句

### 第 I テモテへの手紙御6章17節～19節

《高慢にならず、頼りにならない富にではなく、むしろ、私たちにすべての物を豊かに与えて楽しませて下さる神に望みを置き、善を行ない、立派な行ないに富み、惜しみなく施し、喜んで分け与え、来たるべき世において立派な土台となるものを自分自身のために蓄え、まことのいのちを得るように命じなさい。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実  
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

## ◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】		
【賛美Ⅰ】	新聖歌68「久しく待ちにし」	p. 90
【交読文】	No.52 ルカの福音書第1章	p. 921
【賛美Ⅱ】	新聖歌75「神の御子は」	p. 102
【使徒信条】		
【主の祈り】		
【先週説教】		
【賛美Ⅲ】	新聖歌77「きよしこの夜」	p. 105
【聖書朗読】	ヨハネの福音書2章1節～12節	p. 178上段
【礼拝説教】	《ヨハネの福音書七つの奇跡(そのⅠ)》	
【聖餐式】		
【賛美Ⅳ】	新聖歌165「栄光イエスにあれ」	p. 235
【平和祈り】		
【頌 栄】	新聖歌63 「父・御子・御霊の」	p. 85
【祝祷後奏】		

### ※本日の聖書「ヨハネの福音書2章1節～12節」

2:1 それから三日目に、ガリラヤのカナで婚礼があり、そこにイエスの母がいた。

2:2 イエスも弟子たちも、その婚礼に招かれていた。

2:3 ぶどう酒がなくなると、母はイエスに向かって「ぶどう酒がありません」と言った。

2:4 すると、イエスは母に言われた。「女の方、あなたは私と何の関係がありますか。私の時はまだ来ていません。」

2:5 母は給仕の者たちに言った。「あの方が言われることは、何でもしてください。」

2:6 そこには、ユダヤ人のきよめのしきたりによって、石の水がめが六つ置いてあった。それぞれ、二あるいは三メートル入りのものであった。

2:7 イエスは給仕の者たちに言われた。「水がめを水でいっぱいになさい。」彼らは水がめを縁までいっぱいにした。

2:8 イエスは彼らに言われた。「さあ、それを汲んで、宴会の世話役のところに持って行きなさい。」彼らは持って行った。

2:9 宴会の世話役は、すでにぶどう酒になっていたその水を味見した。汲んだ給仕の者たちはそれがどこから来たのかを知っていたが、世話役は知らなかった。それで、花婿を呼んで、

2:10 こう言った。「みな、初めに良いぶどう酒を出して、酔いが回ったところに悪いのを出すものだが、あなたは良いぶどう酒を今まで取っておきました。」

2:11 イエスはこれを最初のしるしとしてガリラヤのカナで行ない、ご自分の栄光を現された。それで、弟子たちはイエスを信じた。

2:12 その後イエスは、母と弟たち、そして弟子たちとともにカペナウムに下って行き、長い日数ではなかったが、そこに滞在された。

### ●ポイント1.「ガリラヤのカナ」とは？

■ガリラヤのカナ ナザレの北約14キロの地点にある町。フェニキヤとの国境に近いアシエル町のカナと区別する為に「ガリラヤのカナ」と呼ばれる。婚礼に招かれたイエスが、奇蹟によって水をぶどう酒に変え、カペナウムの役人に対して彼の息子のいやしを宣言された所でもある。十二弟子の一人ナタナエルは、この町の出身者であった。

### ●ポイント2.「それから三日目」とは？

※ヨハネの福音書1章45節～50節「6番目の弟子」(新約p.177下段)

■ナタナエル「神の賜物」という意味。十二弟子の一人で、バルトロマイという名で呼ばれていた者と同一人物と思われる。

## ◎先週の礼拝メッセージ【エルサレム到着】

《カイサリアからエルサレムまでは、陸路を約100キロほどの行程です。その途中、パウロは、初めからの弟子であるキプロス人ムナソンの所で一泊したことを書き記しています。さて、次の日の夕方に、パウロ一行はエルサレムに到着します。すると、エルサレム教会の兄弟たちが、喜んで迎え出てくれたとのことでした。》

それから一行は、主の兄弟ヤコブの所に行きました。何と、そこには、教会のユダヤ人の長老たちが、みな集まっていたのです。

エルサレム教会において、大きく用いられていたのは、十二使徒リーダーのシモン・ペテロ、ゼベタイの子ヨハネと主の兄弟ヤコブでした。パウロがヤコブに会うのは、少なくとも四回目となります。パウロはヤコブと長老たちにあいさつをしてから、第二回および第三回伝道旅行の時に起こった事と、また、どの町に教会が建てられたのか、詳しく話したに違いありません。そして、各教会から遣わされた代表としての長老一人一人を紹介したと思われれます。長老たちは、その時、愛の献金を、ヤコブの足元に置いたに違いありません。

パウロは、異邦人であるギリシャ人やローマ人であっても、主イエスが同じように愛された魂であること、主にあっては兄弟であることを、ヤコブやユダヤ人の長老たちに証明したかったに違いないのです。

そして、最も大切な事は、この素晴らしい成果は、確かにパウロによって為し得たものですが、実は、パウロを用いて、聖霊が成し遂げた事なのです。主イエスは弟子たちに言われました。「同じようにあなたがたも、自分に命じられた事をすべて行なったら、私たちは取るに足りない僕です。なすべき事をしただけです、と言いなさい。」と。

私たちは我力では何も出来ません。しかし、私たちの中に住んでおられる聖霊が、私たちを通して御業を成して下さるのです。》

## お知らせ

※第三主日アドベント礼拝は、12月18日(日)です。通常通り、教会において行ないます。クリスマス礼拝は、12月25日(日)となります。